

[様式第7号及び様式第8号の作成方法等]

## 1 使用様式

各選抜において、使用する様式は下表のとおりである。

なお、中学校に就学すべき期間の全部において外国の学校（施行規則第95条第2号に規定する在外教育施設を除く。以下同じ。）及び日本国内における外国人学校に在籍する志願者は、調査書に替え、外国の学校又は日本国内における外国人学校における成績証明書を提出する。

様式番号	使用する選抜
様式第7号	選抜（Ⅰ）、通信制の課程の選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜、併設型高等学校の帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜、秋季入学に関する選抜（通信制の課程及びフレキシブル課程（定時制・通信制））
様式第8号	選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜、秋季入学に関する選抜（定時制の課程のみ）

## 2 作成基準日

（1）選抜（Ⅰ）、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜及び併設型高等学校の帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜

第3学年の2学期末現在で記入する。ただし、2学期制の中学校にあつては第3学年の12月末現在で記入する。

（2）選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、通信制の課程の選抜及び帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜

第3学年の2月7日（月）現在で記入する。

（3）秋季入学のための選抜

第3学年終了時で記入する。

（4）（1）及び（2）にかかわらず、過年度卒業者については、第3学年終了時で記入する。

## 3 課程欄、本・分校欄及び学科等欄

課程欄には全日制、定時制、通信制又はフレキシブルの別を、本・分校欄には本校・分校の別を、学科等欄には志願学科・コース名をそれぞれ記入する。

## 4 番号欄

各学級の出席簿どおりの名列番号を記入する。ただし、同一学級内で男女がそれぞれ1番から始まる番号となっている場合は、通し番号にする。

なお、各生徒の番号は、全ての選抜において同一のものであること。

## 5 学習の記録欄

（1）必修教科の「観点別」

「観点別」は指導要録における「観点別学習状況」の略記である。「観点別（1・2年）」の①から⑤までは、表1（P108）に示している各教科の観点を表し、「観点別（3年）」の①から③までは、表2（P108）に示している各教科の観点を表す。「観点別（1・2年）」には、第1学年及び第2学年の各学年における状況を総合的に評価し、「十分満足できると判断されるもの」について、○印を記入する。「観点別（3年）」には、第3学年における状況を評価し、「十分満足できると判断されるもの」について、○印を記入する。

なお、令和3年3月以前の卒業者については、「観点別（1・2年）」には、第1学年から第3学年までの各学年における状況を総合的に評価し、「十分満足できると判断されるもの」について、○印を記入し、「観点別（3年）」には、全て斜線を引くこと。

## (2) 必修教科の「評定」

ア 出願する選抜に応じて、(ア) 又は (イ) により記入する。

(ア) 選抜（Ⅰ）、通信制の課程の選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜、併設型高等学校の帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜及び秋季入学に関する選抜（通信制の課程及びフレキシブル課程（定時制・通信制））の場合（様式第7号）

5段階評定で記入する。なお、第1学年及び第2学年（過年度の卒業者については第3学年を含む。）については、指導要録の学習の記録の必修教科の評定をそのまま記入する。

「計」には、教科ごとに、第1学年から第3学年までの各学年における評定の合計点を記入し、「合計」には、各教科の「計」の合計点を記入する。

なお、県立三次高等学校、県立広島高等学校及び福山市立福山高等学校においては、社会及び理科の評点を各高等学校においてそれぞれ2倍して選抜の資料とする。

(イ) 選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜及び秋季入学に関する選抜（定時制の課程）の場合（様式第8号）

国語、社会、数学、理科及び外国語については5段階評定で、音楽、美術、保健体育及び技術・家庭については5段階評定による評点を2倍して記入する。なお、第1学年及び第2学年（過年度の卒業者については第3学年を含む。）については、指導要録の学習の記録の必修教科の評定をそのまま用いるものとする。（国語、社会、数学、理科及び外国語についてはそのまま記入し、音楽、美術、保健体育及び技術・家庭については2倍して記入する。）

「計」には、教科ごとに、第1学年から第3学年までの評定の合計点を記入する。

「合計」には、各教科の「計」の合計点に195分の130を乗じた数値を記入する。記入に当たっては、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで記入する。

イ アにかかわらず、中学校の中途において外国の学校から編入学したことにより、指導要録に5段階評定が記載されていない学年がある場合、調査書における当該学年の欄は空欄とし、「計」及び「合計」においては、空欄を0とみなして計算した数値を記入する。

また、備考欄に、在籍していた外国の学校名（国名・校名）及び編入学日を記入するとともに、外国の学校に在籍していた期間における成績証明書を調査書に添付すること。

ウ アにかかわらず、特別支援学級又は特別支援学校の中学部の卒業（見込）者について、各教科等の活動の記録を記述形式で指導要録に記入している場合にあつては、記述形式により備考欄等を使用して記入する。なお、欄が足りない場合は、裏面を使用してもよい。

## (3) 学習の記録の選択教科

ア 「教科名」には、中学校において開設している教科名を記入する。

イ 「評定」に当該教科の評定を記入する。評定の記入に当たっては、指導要録の記載の方法に基づいて、A、B、Cで記入する。

ウ 実施がない場合は、空欄とする。

## 6 行動の記録欄

第3学年の評定を指導要録の記載の方法に基づいて、○印を記入する。

## 7 欠席欄

(1) 「日数」については、指導要録の記載の方法に基づいて、各学年の欠席日数を記入し、「計」には第1学年から第3学年までの合計を記入する。

(2) 「主な理由」については、各学年で連続5日以上又は「計」が30日以上ある者について、その主な理由（病名等）を記入する。

## 8 総合的な学習の時間の記録欄

学習活動を記入し、さらに特記すべき事項を記入する。

## 9 特別活動の記録欄

特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）の参加、活動状況のうち、特記すべき事項を記入する。

## 10 スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録欄

特別活動以外のスポーツ・文化・ボランティア活動等（中学校における部活動を含む。）の参加、活動状況のうち、特記すべき事項を記入する。

## 11 備考欄

学習の状況、趣味、特技、将来の進路等について特記すべき事項及び受検に当たって、特に配慮すべき事項等で他の欄に記入できないものを記入する。

## 12 その他

(1) 該当事項のない場合は空欄でよい。ただし、5（1）の令和3年3月以前の卒業者の「観点別（3年）」には、全て斜線を引くこと。

(2) 提出に当たっては、課程別、本分校別、学科・コース別とし、学級順・番号順に重ね、左上とじ込みとすること。

表1 令和3年3月以前の卒業者に係る観点

教科	①	②	③	④	⑤
国語	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
数学	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量，図形などについての知識・理解	
理科	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
音楽	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	
美術	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解	
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	

表2 令和4年3月以降の卒業（見込）者に係る観点

教科	①	②	③
各教科	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度